

きは是である、然し本邦製絲工業の分布を論ずるには何等の影響を及ぼさぬが故に之を略す。

以上は蠶業の自由競争時代に於ける工業の盛衰變遷の主因たるもので斯る因子の下に工業は或は都市に集中し或は地方に分散するのである。

之を要するに本邦製絲工業は經營せられてから比較的永くの年月を経ては居るが維新以前に於ては僅に消費地附近に在つて行はれて居つたが外國貿易の發展と共に著しく其生産額を増加するに至り惹いては經營の有利なる地方に分散經營せられ、更に斯業の發展を來すや生産條件の最有利なる地方に集中經營を見るに至り而して其極は再び地方分散の勢を顯し始めたのである。

斯業經營者も亦施政家も斯る方面から本邦製絲業を觀察する必要があるではあるまいかと云ふ思付から余は以上製絲工業の集中並に分散と云ふ事の小論をした所以である。

桑樹發芽促進試驗

上田蠶絲專門學校講師
理學士 農學士

遠藤保太郎
宮島徳一
佐藤善衛

休眠状態に在る植物に刺戟を與へて人爲的に發芽を促進し得る方法あり、ヨハンセン氏の『エーテル』法、モーリシ氏の温浴法、ウエベル氏の注射法等是あり。

本試験に於ては大體ヨハンセン氏の『エーテル』法に則り刺戟劑としては『エーテル』並に『クロ、フォルム』を用ひ之を桑樹に適用して以て其發芽促進を試みたり。

而して今回の實驗に於ては主として(一)桑樹各品種の刺戟劑に對する感應の難易及び(二)刺戟を與ふるに適當なる時期の決定を企てたり。

實驗裝置及び材料

本試験に於て『エーテル』及び『クロ、フォルム』燻蒸用に供したる箱は内容一米立方にして内面は全部亜鉛板を以て覆ひ氣密からしめ、前面には二尺平方の口を開き之に蝶番にて扉ヒツを付け其縁邊に段を作り口の周邊に設けたる段と適合する如くし且つ其接觸面に天鵞絨を貼る。

又箱の上面の中央には一の小孔を穿ち其直下に硝子皿を入れたる籠を懸垂せしめ漏斗管により刺戟劑を注入するの用に當つ。

供試桑樹は上田蠶絲専門學校種類園に於ける三十六品種を以てし各品種共毎回『エーテル』燻蒸區『クロ、フォルム』燻蒸區及標準區用として各一本宛を採り各條は成るべく生育狀態相等しき中庸大あるを

撰びたり。

試 験 方 法

先づ切斷したる桑條を一本宛燻蒸箱の底に敷きたる濕砂中に挿し込み梢端の箱の内側面に立てかけ扉を鎖し留めをなし次に刺戟劑注入孔より漏斗管により一定量の『エーテル』又は『クロフォルム』を内部の受器に注下し然る後漏斗を抜き去り直ちに栓を施して密閉す、本實驗に適用せる刺戟劑の分量は燻蒸箱の容積一米立方に對し『エーテル』は五〇〇立方糶『クロ、フォルム』は五〇〇立方糶とし燻蒸時間は二晝夜とせり。

燻蒸を終了するときは扉を開き枝條を取り出し之を井水を充したる筒壘に挿し催芽室に齎し日當りよき所に安置し折々水を取替ふ。實驗を行ひたる回数前後三回にして其期日は次の如し。

第一回 二月十二日着手

第二回 三月一日着手

第三回 三月廿五日着手

實 験 中 の 温 度

燻蒸箱内（クロ、フォルム氣中）に自記寒暖計を入れ置き燻蒸中の温度の變化を描かしたるに第一回

實驗に於ては午後四時、燻蒸開始當時氣温二〇度なりしが之より急激に下降して二時間後五度に下り夫より稍々緩かなる傾斜を示し翌日午前九時に至りて正〇度に達し次に漸次上昇して午後五時二度半に至り更に下降して三日目午前八時〇度以下八分に達し夫より再び上向して十二時〇度を経て午後四時二度に昇りたり。

第二回及び第三回實驗に於ける燻蒸箱中の温度の經過曲線も前回と酷似し第二回には最低〇度以下五分にして最高四度を示し第三回には最低〇度以下七分にして最高四度ありき、即ち密閉せられたる燻蒸箱中の温度は外界の氣温に比して變動尠く而も常に比較的低温度を持続せり。

催芽室に於ては日中數時間硝子窓を通じて日光を直射せしめ夜は『カーテン』を引きて過冷を防きたるが實驗中温度の經過は次表に示す如く時々〇度以下に下降せり、因に日々の最低温度は概して午前六時より八時の間に現れ、最高温度は多く午後二時前後に現れたり。

『催芽室内最低最高温度表』

月 日	最 低	最 高	月 日	最 低	最 高
二月十五日	〇、〇	一三、〇	同 二十日	〇、三	八、五
同 十六日	(一) 一、五	一四、〇	同 二十一日	(一) 〇、二	九、〇
二月十七日	(一) 一、〇	一五、〇	同 二十二日	一、〇	一六、五
同 十八日	(一) 二、五	一三、〇	同 二十三日	一、〇	一〇、二
同 十九日	(一) 〇、三	一、九〇	同 二十四日	五、〇	一六、〇

同 十八日	同 十七日	同 十六日	同 十五日	同 十四日	同 十三日	同 十二日	同 十一日	同 十日	同 九日	同 八日	同 七日	同 六日	同 五日	同 四日	同 三日	同 二日	三月 一日	同 二十九日	同 二十八日	同 二十七日	同 二十六日	同 二十五日	
		(二)							(二)						同	同	同						
一、〇	一、〇	〇、二	二、三	二、五	五、五	三、〇	四、八	一、〇	二、〇	一、〇	〇、五	一、七	三、三	〇、六	同	同	五、六	四、五	〇、三	〇、八	四、七	五、〇	
一七、〇	二八、一	二七、〇	一五、〇	一一、〇	一六、八	一二、五	一三、〇	一八、五	二四、〇	一六、〇	二一、〇	二八、〇	二八、〇	一二、〇	同	同	一六、五	一二、〇	一五、九	一二、二	一四、九	二〇、五	

同 十日	同 九日	同 八日	同 七日	同 六日	同 五日	同 四日	同 三日	同 二日	四月 一日	同 三十一日	同 三十日	同 二十九日	同 二十八日	同 二十七日	同 二十六日	同 二十五日	同 二十四日	同 二十三日	同 二十二日	同 二十一日	同 二十日	同 十九日
			(二)													(二)				(二)		
一〇、七	五、五	六、〇	〇、五	二、三	〇、五	八、〇	一、〇	四、八	七、〇	四、六	六、一	〇、〇	六、〇	同	同	一、〇	〇、八	四、二	五、〇	〇、〇	二、〇	〇、二
一七、五	一七、三	一四、〇	九、五	一三、五	一一、〇	一二、〇	一五、七	一二、四	一五、〇	一七、〇	二四、〇	一二、〇	一四、一	同	同	二〇、一	二一、九	一八、二	一五、〇	一四、三	一六、三	一一、一

同 十一日	一〇・五	一七・二	同 十七日	八・八	一四・五
同 十二日	七・〇	一七・〇	同 十八日	六・一	一八・五
同 十三日	一〇・〇	一七・〇	同 十九日	一一・〇	二一・五
同 十四日	九・〇	一七・〇	同 二十日	一二・五	二一・〇
同 十五日	五・八	一〇・五	同 二十一日	一〇・五	一四・五
同 十六日	六・〇	一一・〇			

實 驗 成 績

(A) 第一回實驗成績

第一回實驗(二月十二日着手)に於ける『クロ、フォルム』燻蒸區『エーテル』燻蒸區並に標準區の萌芽狀況

の大略は左に表示する如し

(備考) 一、萌芽狀態調査に當り各條につき最も發育の進みたる芽を目標とせり

二、表中△印は芽の青みたるもの

●印は脱苞

●印は開口

×印は放棄其數は放棄數を示す

三、表中の數字は芽の寸法を示し單位は分なり

四、各條に於て芽の着生位置による發芽順序は繁雜を避けんが爲左表には之を省略せるが概して條の上部の芽最も早く中部の芽最も遅く萌發せるが稀には中部の芽最も早く綻び次で上下部に及びたるものありたり

五、品種によりては脱苞後直ちに花房を垂下せるものありしが左表中には其記載を省略す

『クロ、フォルム』燻蒸區

相模早生	三月 十日	三月 十日	三月 廿六日	三月 廿四日	三月 廿九日	三月 廿一日	四月 六日	四月 十三日	四月 廿二日
	一	△	△	△三、八	△三、五	△四、〇	△四、五	●七、〇	× 一

細	國	小	嘉	青	九	島	仲	御	小	平	芭	魯	甘	魯	市	柳	島	奎	伊	多	丹	遠
枝	宮	幡	八	木	紋	の	麻	所	次	次	蕪	野	桑	桑	平	田	村	桑	早	早	赤	高

			△										△	△	△	△			△			△	
			△			△			△			△	△	△	△	△			△	△			△
			△		△	△			△		△	△	△	△	△	△			△	△		△	△
△ 三五	△ 二五	△ 一九	△ 一九	△ 二二	△ 二七	△ 二四	△ 三五	△ 二二	△ 二八	△ 三八	△ 二六	△ 三六	△ 二七	△ 三〇	△ 二四	△ 二五	△ 二〇	△ 三八	△ 三一	△ 三一	△ 三一	△ 三六	△ 五、六
△ 三三	△ 二六	△ 二二	△ 一九	△ 二六	△ 三〇	△ 二四	△ 二八	△ 二六	△ 二八	△ 三六	△ 四〇	△ 四〇	△ 三六	△ 三一	△ 二八	△ 二五	△ 二〇	△ 三八	△ 四〇	△ 四〇	△ 三八	△ 三八	△ 五、九
△ 三五	△ 二九	△ 二五	△ 一九	△ 三〇	△ 三三	△ 三三	△ 三三	△ 二九	△ 四二	◎ 五、五	◎ 五、二	△ 四、三	△ 四、一	△ 三一	△ 三〇	△ 二六	△ 二〇	◎ 三八	△ 四、四	△ 四、七	△ 四、三	◎ 八、一	
△ 三五	△ 二六	△ 二九	△ 二、一	△ 二、五	◎ 三、八	△ 三〇	△ 四、〇	△ 三、六	◎ 五、七	◎ 六、二	◎ 六、四	◎ 五、〇	△ 五、六	△ 四、〇	△ 三、四	△ 二、六	△ 二、〇	◎ 四、七	△ 五、二	△ 五、九	△ 五、二	◎ 六、六	
△ 三、五	◎ 七、一	△ 三、〇	△ 二、一	△ 四、八	◎ 三、八	△ 四、〇	◎ 七、八	◎ 四、六	× —	× 六、二	× —	◎ 六、〇	△ 五、六	△ 四、六	△ 三、四	◎ 四、〇	二 〇	◎ —	△ 六、八	× —	◎ 九、一	◎ 七、八	
△ 四、二	◎ —	△ 三、〇	△ 四、〇	◎ —	◎ 三、八	◎ —	◎ 八、三	◎ 五、二	× —	× —	◎ —	◎ —	◎ —	◎ —	△ 三、四	◎ —	◎ —	◎ —	× —	× —	× —	◎ —	

柳 匠	島 村	奎 桑	伊 豆 早 生	多 胡 早 生	丹 後 赤 木	遠 州 高 助	相 模 早 生	改 良 十 文 字	正 司 桑	司 桑	御 國 桑	十 文 字	山 中 高 助	鼠 返	八 ッ 房	彦 次 郎	落 井	赤 木	鶴 田
				△		△			△	△	△					△			
				△		◎		△	△	△	△					△		△	
		△		△		◎		△	△	△	△					△		△	△
△ 三一	△ 一九	△ 三六	△ 三七	△ 三八	△ 一八	◎ 三五	△ 三〇	△ 三三	△ 三八	△ 四〇	△ 三三	△ 三三	△ 一六	△ 一六	△ 一九	△ 三〇	△ 一四	△ 三三	△ 二八
△ 二三	△ 二〇	△ 四四	△ 四二	△ 四九	△ 一八	◎ 四〇	△ 三三	△ 三三	△ 二八	△ 四〇	△ 三六	△ 一三	△ 一九	△ 一六	△ 三二	△ 三三	△ 一六	△ 四二	△ 二九
△ 三五	◎ 二〇	◎ 四六	△ 四七	△ 五五	△ 一九	◎ 四〇	△ 三三	△ 三五	△ 三〇	△ 四三	△ 三七	△ 一三	△ 二〇	△ 一六	△ 三五	△ 四三	△ 一七	△ 四八	△ 三三
◎ 四四	◎ 二〇	◎ 五六	△ 五九	△ 六八	◎ 二〇	◎ 四四	△ 三三	◎ 二八	◎ 四〇	◎ 五〇	△ 四六	△ 一一	△ 二六	△ 一六	△ 二九	◎ 五〇	△ 二〇	◎ 六四	△ 三四
◎ 三五	△ 三〇	×	×	×	◎ 三一	◎ 四一	△ 三三	◎ 三五	◎ 七五	◎ 六一	◎ 六八	◎ 一一	◎ 四六	◎ 一六	◎ 六〇	◎ 五八	△ 二四	×	◎ 七〇
◎ 三一	△ 三六	×	×	×	△ 二六	◎ 四八	△ 四〇	◎ 一〇	◎ 八〇	◎ 八一	×	×	×	◎ 三〇	×	◎ 三八	×	×	×

『エーテル』燻蒸區

市中 魯桑 甘桑 魯國 芭蕉 平次 小牧 御所 仲麻 島の内 九紋龍 青木 嘉八 小幡 國富 細枝 鶴田 赤木 落井 彦次郎 八ツ房 取返 山中 高助

										△				△		△	△			△		
											△				△	△	△	△			△	
					△						△	△	△	△	△	△	△	△	△		△	
一七	一四	〇	二一	二三	二〇	二二	二四	二〇	二二	一八	二〇	二〇	二二	△	二〇	二二	二四	二〇	二二		△	
		△	△	△	△				△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
一七	一四	一三	一八	一六	三四	三二	〇	二〇	二二	二二	二二	二四	二二	△	二〇	二二	二四	二二	二四	二二	△	
		△	◎	△	△				△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
一七	一四	二二	三七	二八	三四	三四	二〇	二二	二二	二四	二四	二二	二二	△	二一	二二	二四	二二	二四	二二	△	
		△	◎	△	△				△	△	△	◎	△	△	◎	△	△	△	△	△	◎	
一七	一	二七	四二	三四	三四	三五	二〇	二二	二二	二二	二〇	二二	二二	△	四九	四九	三七	四一	四五	一	◎	
		◎	◎	△	◎	△			△	◎	◎	×	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	
二〇	一五	四〇	四九	三二	一一	五一	二二	二二	二八	四八	七五	九五	三一	三七	五六	五一	五〇	七二	〇〇	四七	一	◎
△	△	◎	◎	△	×	×	△	△	△	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	△	◎	
二七	〇	五九	六三	一	×	五二	三三	三三	三八	一	×	×	一	一	六〇	五七	六五	七二	〇〇	五四	一	◎

五五

十文字
御國桑
司桑
正司桑
改良十文字

標準區(室内)

相模早生	遠州高助	丹後赤木	多胡早生	伊豆早生	李桑	島村	柳田	市平	魯桑	甘樂桑	魯國野桑	芭蕉	平次郎	小牧
三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日
三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日
三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日	三月廿四日
三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日	三月廿九日
三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日
四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日	四月六日
四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日	四月十三日
四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日	四月廿二日

御所選 仲木 島内 九龍 青木 嘉八 小幡 國富 細枝 鶴田 赤木 落井 彦次郎 八房 鼠返 山中高助 十文字 御國桑 司國桑 正司桑 改良十文字

自然發芽期(大正五年度)

△	△																	△		
△	△	△																		
△	△	△																		
△ 二、六	△ 二、五	△ 三、〇	△ 二、四	△ 一、〇	△ 一、五	△ 一、八	△ 二、〇	△ 二、〇	△ 一、七	△ 二、四	△ 二、四	△ 一、八	△ 一、九	△ 一、二	△ 二、一	△ 一、六	△ 一、六	△ 一、九	△ 二、〇	△ 二、七
△ 三、一	△ 三、〇	△ 三、五	△ 三、六	△ 二、一	△ 一、九	△ 一、八	△ 三、一	△ 三、四	△ 一、七	△ 三、八	△ 二、四	△ 三、〇	△ 一、九	△ 一、四	△ 二、一	△ 一、八	△ 二、二	△ 二、四	△ 二、五	△ 三、〇
△ 三、四	△ 三、二	△ 三、一	△ 三、〇	△ 二、一	△ 二、一	△ 一、八	△ 二、五	△ 三、九	△ 一、七	△ 三、三	△ 二、四	△ 三、〇	△ 二、一	△ 一、七	△ 三、一	△ 二、〇	△ 二、六	△ 二、七	△ 三、五	△ 三、七
△ 三、四	△ 三、七	● 三、四	△ 三、五	△ 二、一	△ 二、五	△ 一、八	△ 三、〇	△ 三、九	△ 一、七	△ 三、〇	△ 二、四	△ 二、一	△ 二、二	△ 二、〇	△ 二、一	△ 二、〇	△ 三、一	△ 二、七	△ 二、八	△ 三、六
△ 三、四	△ 三、四	● 三、四	△ 三、六	△ 二、一	△ 三、三	△ 一、八	● 三、五	△ 三、九	△ 一、七	△ 三、二	△ 二、四	△ 二、四	● 三、四	△ 三、三	△ 三、六	△ 二、一	△ 三、四	△ 三、九	● 三、〇	● 三、七
△ 三、六	●	●	● 七、九	△ 二、〇	●	△ 二、八	●	●				△ 二、七	△ 三、五	●	●	△ 三、六	△ 二、一	●	●	●

小嘉青九島仲御小平芭魯甘魯市柳島奎伊多丹遠相
 幡八木龍紋ノ麻所次耶蕉野國樂桑桑桑平田村桑生豆胡早赤州模
 八木龍紋ノ麻所次耶蕉野國樂桑桑桑平田村桑生豆胡早赤州模

小	嘉	青	九	島	仲	御	小	平	芭	魯	甘	魯	市	柳	島	奎	伊	多	丹	遠	相	藍四月						
幡	八	木	龍	紋ノ	麻	所	次	耶	蕉	野	國	樂	桑	桑	桑	平	田	村	桑	生	豆	胡	早	赤	州	模	日	
																									●	日		
															●	●	●									●	日	
																										●	日	
															●		●		●	●						●	日	
			●			●	●				●				●		●										日	次
						●			●	●	●		●		●		●		●	●		●	●			×	日	莖
	●		●	●	●						●						●										日	卅
●							●	●	●	●		●	×													×	一五月	日
	●			●	●										×	×	×		×	×							日	二
●		●	×							×																	日	三
						×		×		×								×									日	四
		●		×	×		×		×			×															日	五
×	×																										日	六
																											日	七
		×																									日	八

右表によりれば刺戟劑の效果歴然たり。

即ち『クロ、フォルム』燻蒸區最も萌發速にして『エーテル』燻蒸區之に次ぐ。

(二) 標準區は最も發芽遅きも戶外に比し温暖ある催芽室内に在りて溫度の影響を受けたを以て戶外桑園に於ける自然發芽に比較すれば其萌發遙に早き事勿論なり。

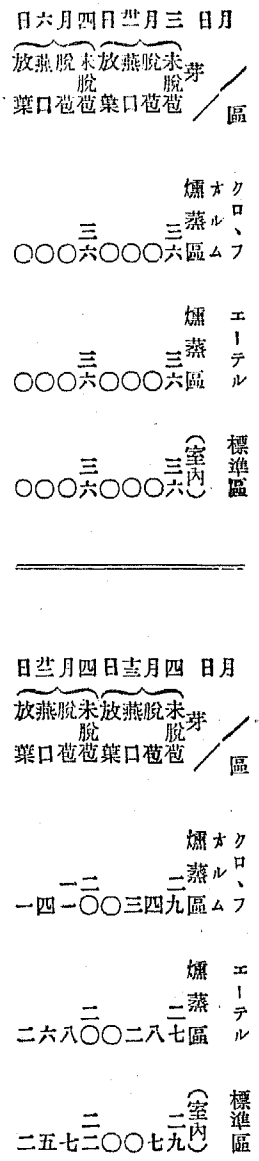
(三) 發芽促進法により自然發芽時期より短縮せられたる日數は脱苞期を標準とすれば『エーテル』燻蒸區の遠州高助の如きは三月十三日に於て既に脱苞状態とありしを以て自然發芽の脱苞期四月二十四日に先立つ事實に六週間なり而して放葉の時期よりすれば戶外桑樹の早生種は多く五月一二日(遠州高助は四月廿九日)にして晚生種は夫より約一週間遅れて放葉せるが『クロ、フォルム』燻蒸區に於て多胡早生、芭蕉、小牧、赤木、『エーテル』燻蒸區に於て多胡早生、伊豆早生、空桑、九龍紋、室内標準區に於て多胡早生、芭蕉の各品種は何れも四月七日より十三日に至る間に放葉せるを以て戶外該當桑樹の放葉に比し先立つ事大約三週間なり。

(四) 發芽促進法の效果は供試桑條(又は各冬芽)の勢力の如何によりては多少異同あるべしと雖も前掲の成績よりすれば桑樹の品種によりては刺戟劑に對する感應に差異ある如し即ち多胡早生、伊豆早生、赤木、御國桑、空桑、小牧、芭蕉等は各區を通じ最も萌芽迅速あるが反之十文字、鼠返、嶋村、細枝、嘉八、改良十文字等は萌發不良にして枯死せるもの多し而して品種の早中晚生に對する效果は概して早

生種に稍々顯著にして最晩生種に不良ありし傾向ある如きも各品種に就ては甚區々たり。

(B) 第二回實驗成績

第二回實驗(三月一日着手)の成績の概略は左表に示す如し



右表によれば『クロ、フォルム』燻蒸區『エーテル』燻蒸區共室内標準區に比較して大差なく殆んど刺戟劑の効果を認めず且つ第一回實驗に比し一般に發芽狀態大に遅れ居るを見る但し戶外桑樹の自然發芽に比しては猶一週間以上早きものあり。

此回に於て最も迅速に苗發せる品種は『クロ、フォルム』燻蒸區に於て魯國野桑『エーテル』燻蒸區に於て伊豆早生空桑、室内標準區に於て多胡早生、伊豆早生等あり、而して第一回實驗に於て脱苞最も速かなりし遠州高助は此回に於ては刺戟劑にて燻蒸せる兩區共標準區に比し却て萌發遅れ四月二十二日に至るも脱苞するに至らざりき、是れ刺戟時期の不適當なりし爲却て萌發を阻止するの結果を生せしによるか

らんか。

(C) 第三回實驗成績

第三回實驗(三月二十五日着手)成績は前二回の成績に比し發芽促進の効果遙に劣るのみならず戶外桑樹の自然發芽よりも萌發不良ある有様あれば茲に贅説せず。

以上三回の實驗中最も早く着手せる第一回實驗は最も好結果を與へ第二回實驗之に亞ぎ第三回實驗は殆んど不結果に了れり即ち發芽促進に向て『クロ、フォルム』又は『エーテル』燻蒸の時期の早きに利あるを知る。

苗木の發芽促進試驗

以上の實驗に於ては總て切斷したる桑條を以てしたるが別に比較の爲根部を存する苗木に就て發芽促進法を試みたり、材料は鼠返一年苗(各區三本宛)を以てし燻蒸操作は前述の切枝の場合と全く同様に行ひ催芽室に在ては根部を濕砂中に植込み置けり。

試驗成績は次表の如し

第一回實驗 (二月十二日着手)	「クロ、フォルム」燻蒸區 室內標準區	四月廿二日	青脱燕
第二回實驗 (三月一日着手)	「エーテル」燻蒸區 室內標準區	四月廿八日	脱第二放葉 苞

以上の如く根を有する苗木に於ては發芽促進の效果最も顯著にして標準區(室内に於て温度の影響を受けたるものに)比し發芽約一週間早く戶外桑樹(鼠返)に比し早きこと十日以上なり。

五月に至り之を圃地に栽植し置きたるに發育益々良好にして次第に開葉を重ね五月九日夜の霜害當時には稍々硬熟せる爲か全然免害せるを認めたり。

切枝を以てしたる實驗は前項に記載せし如く(鼠返)は何れの場合にも殆んど不發芽に了りし有様にて發芽促進法の効果は根を有するものに遠く及ばず、且つ他の品種につきても一般に發芽後の發育不良にして二、三開葉せるものも葉形小にして粗剛、五月に至り發育全く停止し往々黃變枯凋せるものを生ぜり、即ち切枝となれるものは生理的障害に因り久しく發育を持続せざりしと雖ももし茲に適當の水揚法有りて或程度迄其發育を持続せしむるを得ば其實用的價值決して僅少にあらざるべし。

例へば夏秋蠶桑園に於て春期發芽伐截廢棄すべき桑條を利用して以て多少ありとも春蠶飼育用に供するを得んか。(完)

